

# 常総市公共交通活性化協議会 (第10回会議要旨)

■開催:平成21年12月21日(月) 午後2:10~3:15 石下福祉センター大会議室

■出席: 委員 鈴木委員長, 飯塚委員, 吉田委員, 秋葉委員, 尾上委員, 落合委員, 沼尻委員, 成松委員  
(茨城運輸支局), 中本委員(県交通対策室), 住谷委員(常総警察署), 松村委員(宥三妻タクシー), 石川委員(関東鉄道労組), 中川委員(常総市商工会), 馬場委員(常総市社会福祉協議会), 塚田企画総務部長, 鈴木福祉部長, 秋田社会福祉課長, 寺田介護長寿課長  
オブザーバー 山崎運転手・茂呂オペレーター・倉持オペレーター  
事務局 企画課 増田課長補佐, 小林係長, 小林主事

■配布資料:

- ・常総市公共交通活性化協議会 第10回会議出席者名簿
- ・常総市公共交通活性化協議会 第10回会議議案書
- ・常総市公共交通活性化協議会(第8回会議録)
- ・第9回会議まとめ

■内 容

- 議案第1号 予約型乗合交通の利用状況等について
- 議案第2号 利用料等の改定について
- その他

■協議内容 (◆:議長 ●:委員, ⇒:事務局, ◇:ドライバー, ○:オペレータ)

開 会 午後2:10

⇒: 前回の会議内容を「第9回会議まとめ」に基づき内容を説明。

1 「委員の変更について」シルバークラブ連絡協議会の会長が, 田村さんから落合さんに代わられたので, 新たに落合勉さんに委員の就任をお願いした。

2 「予約型乗合交通の運行について」

① 運行開始日の変更について

NTT側でシステムの確保に時間を要することや運賃の変更の件もあり, 運行開始日が当初予定日の10月1日(木)から10月26日(月)に変更することになったことを承認。

② 運行までの広報等の状況について

広報紙や福祉循環バスへのチラシ掲載のほか, 社協開催の食事会やシルバークラブの会合等で随時お知らせをしていくことを説明。

③ 運行までのスケジュールについて

9月14日から予約センターの準備(システム構築等)

10月1日からオペレーターの研修を開始

10月19日から運転手の研修を開始

10月26日から運行開始（出発式を予定）。

④ 利用登録者の状況について

平成21年9月16日現在で、294世帯・610名の登録があることを報告。

その他

運行開始日の変更等について、新聞報道等が先になってしまい委員への報告が遅れたことについて謝罪。

【議案第1号】

⇒： 「予約型乗合交通の利用状況等について」説明。

●： 利用者の年齢別や利用時間帯毎の集計のほか、地域ブロック毎の利用状況のデータは取れるのか。

⇒： 年齢別の利用者状況について集計がされているかは判らないので後で確認する。それ以外の時間帯または地域別の利用状況については集計しているので、要望があれば今後開示したいと思う。

今年度においては1日当たり80人の利用者を見込んでいるが、福祉循環バスの廃止前の現時点で、日によっては1日当たり70人を超える日も出てきている。

●： 利用券の販売所別の売上げ状況についてはどうか。

⇒： 市以外の販売所については、前もって利用券を購入してもらい販売しているので、その詳細については把握できていないが、企画課の窓口では、現時点で650冊ほど販売している状況である。

●： 前もって買取って販売しているとはどういうことか。

⇒： JAなどは、事前に100冊程買取っていただき、買取ったものを各支店にてそれぞれ販売しているの、実際の詳細な販売状況までは把握できていない。

●： 市以外の販売所で販売する際には手数料は支払っているのか。

⇒： 地域貢献といったことで手数料は無しでお願いしているが、買取を原則としていることや手数料等の問題もあって、販売に協力してもらえる所がなかなか増えない状況である。

◆： 第1号議案承認

【議案第2号】

⇒： 「利用料等の改定について」説明

◆： 1番「3歳未満の利用料金について」

●： 1番の3歳児未満の利用料金を無料にする案について、子どもが3歳か4歳かの反別はどのようにするのか、就学前の子供について無料とするといったことではどうか。

⇒： 事務局の考え方としては、座席を占有しない抱っこして利用する子どもについては無料にしたい考えである。

●： 3歳児といった表現ではなく乳幼児といった表現にしてはどうか。

⇒： 乳児といった表現となると、用語上の定義では1歳未満を意味し、幼児といったことになると未就学児までの子どもを対象とすることになってしまう。

●： 乳幼児となるとチャイルドシートが義務付けられるのではないか。

◆： 警察の方ではその辺の定義付けはあるか。

- ： 大丈夫ですかと言われるとここではっきり大丈夫とはいえないが、薦めたくはない。  
ただ、常にチャイルドシートを備え付けておくわけには行かないと思うので、規定を設けることは難しい。
- ◆： 今後チャイルドシートを設置する考えは無いのか。
- ⇒： 今のところ予定は無い。
- ： 一般の乗合バスにはシートベルトが設置されているが、幼稚園のバスにはシートベルトは設置されていない。
- ◆： 座席の占有の話と、安全面でのシートベルトの話は別の問題である。  
仮に年齢で切るとなると、予約の時点でチェックはできるのか。
- ⇒： 利用者登録をしてもらう時に年齢を記載してもらっている。
- ： 予約システムの操作として、まずは名前・利用時間・行先の確認をし、操作の最終段階で年齢を確認できる画面が表示されるため、予約の連絡をいただいた時点で即座に年齢を確認することはできない。
- ： 予約の電話を受けている時点では利用者の年齢が判らないということになると、場合によっては車両の乗車定員以上の予約を受けてしまう可能性が出てくることはないのか。  
そうするとやはり料金と定員の部分をはっきりさせておいてもらいたい。
- ： この予約型乗合交通を運行するにあたって、乳幼児のチャイルドシートの問題やシートベルトの問題についてはどう考えていたのか。
- ⇒： 乗合の運行形態では、シートベルトやチャイルドシートの着用についての規定はない。
- ： 基本的には1座席に1名といった考え方で、車両にシートベルト等の設置があれば使用しなければならない。
- ： 料金の設定について他の交通事業者はどうしているのか。
- ： 一般の交通事業の場合、航空機については3歳児未満については料金を取らない規定になっている。  
鉄道やバスについては運行会社でそれぞれ設定しており、会社によっては、3歳児が1人の時は無料であるが、2人以上となった場合には料金を取るといった規定を設けているところもある。  
他市の状況では、未就学児で料金を取っているところは少なく、8割位は無料にしているかまたは半額となっているが、これはデマンド交通の利用者の殆どが高齢者であるためと思われる。  
また、常総市の乗合交通の場合はタクシー会社が請負って運行を行っているが、運行形態としてはバス会社と同じ乗合いの許認可となるので、シートベルトの付いている車両であれば使用することとなっており、付いていない場合には使用しなくても良いことになっている。
- ◆： 他市で乳児といった設定はないのか。
- ： 乗合交通利用者の殆どが高齢者であることもあり、だいたいの場合未就学児で切っているところが多いようで、乳児を対象として設定しているところはあまり無いと思われる。
- ◆： 料金の問題と安全面の問題とが一緒になってしまったが、子ども割引の対象についてはいかがでしょうか。
- ： 現在までの利用状況では、乳幼児の利用状況はどうであったか。

⇒： 11月の利用データでは、6歳・7歳・10歳のお子さんがそれぞれ2名ずつ利用されていたようで、乳幼児の利用は無かったようである。

事務局としては、当初の料金設定から250円といった安い利用料金に変更したこともあるので、定員管理をきちんと行っていくことを条件に、提案書の「座席を占有しない」といった文言を削除した「3歳未満の子ども」といったことをご承認いただければと考えている。

◆： 2番「利用者の特例措置について」

⇒： この提案については、市外に在住する身内の者が常総市内に住む高齢者の介添え人となる場合の取扱についてで、この問題については実際にこれまで2・3件の問い合わせがあり懸案事項となっていた。

◆： この議案第2号の二つの案件は、何時から改定したいと考えているのか。

⇒： 本日も承認いただければ、早速1月中に運輸支局の方に申請をし許可が下り次第運用したいと考えている。

◆： 第2号議案承認

◆： その他

⇒： 本日は、オブザーバーとして乗合交通のドライバーとオペレーターの方に出席いただいているので、実際に業務を行っている中で問題点等があれば伺いたい。

◇： 10月から運行を行っている中で、利用者の要望として一番多いのが車両内で利用券を購入できないかといった声である。

これまで利用券が市役所と社協でしか販売されていなかったこともあって、利用券を購入するために市役所までお客さんを乗せたことがあったが、利用券を頂く立場としては、なんとも申し訳ない気持ちになってしまったことがあった。

⇒： 車両内での利用券の販売については、事務局の方にも何人かの方々から要望がきている。

これらの販売については、当初、運行にかかる事業者との取り決めの中で、ドライバーに負担を掛けないといったことで車両内での金銭の授受は行わないこととなっていた。

そのため、これまで事務局側からそれとなく個々の事業者に意見を聞いてみたところ、事業者によっては扱ってもいいと言ってくれるところと、あまり積極的ではないところがあるため、現状では統一が図れない状況である。

事務局としては事業者間との今後の協議の中で再度働きかけを行ってまいりたいと考えている。

○： 運行開始当初から予約の受付をさせて頂いている。運行当初は1日当たり20人程度の利用者であったが、最近では1日最低でも50名程度の予約をいただいている状況で、本日も64件の予約をいただいている。

利用時間帯としては、11時から14時までの予約が多く、場合によっては予約時間を遅らせていただいていることもある状況。

このような利用状況を考えると、今後車両を増やすなどのなんらかの対策を検討してもらわないと、予約がパンクしてしまう状況になりかねない。

●： 時間帯によって利用者に偏りがあるのはどこの市でも同様で、夕方の便についてはどこでも利用者が少

ないようだ。

そのため市によっては、予約の少ない夕方の便を利用者の多い時間帯に1便程度流動的にシフトさせて運行を行っているところもある。

利用者が多くなってきたからといって便数を増やす検討をする前に、まずは、決められた枠の中で調整していくなどの対策を練ることから検討してもらいたい。

●： 車両のうちワゴン車には、手摺りがないため高齢者が乗り降りする際に不便であるといった声を耳にした  
が、手摺り等を設置できないものか。

◇： 私はワゴン車両を担当しているが、扉の右側に手摺りが設置されているはずである。手摺りは扉を完全  
に開けないと見えないので気づかなかったのかも知れない。

●： 乗合交通は現在平日の午前8時から午後4時までといった時間帯で運行しているが、土・日の運航につ  
いては検討できないのか。

⇒： この予約型乗合交通は、低料金で各タクシー事業者の協力の下で運行しているが、250円で市内どこ  
にでも行けることで、明らかに一般のタクシー利用者が減少傾向にあることは間違いない。

事務局としては、民業の圧迫を考慮すると今以上運行時間帯を拡大していく考えは無い。

●： それは将来的にも検討できないということか。

⇒： 将来的にも実施できないと考えている。

◆： 利用者に関するデータについて、もう少し細かいデータを取得することは可能か。

⇒： 必要なデータがどのようなものであるか教えていただければ、抽出が可能かどうか確認し開示してまい  
りたいと思う。

●： 国では政権も変わり、来年度の予算編成等で事業見直しが行われている。常総市の予約型乗合交通の  
平成21年度予算は、国の補助と市の持ち出しが半々ぐらいで計5,000万円となっていたと思われるが、  
来年度の見通しはどうか、また、継続して運行していけるのか。

⇒： ご指摘のとおりこの地域公共交通活性化・再生総合事業費補助金も国の事業仕分けの対象事業とな  
っており、来年度の予算の縮小が予想されるほか、採択を希望する自治体が増えていることもあって、計画  
当初予定していただけた国の補助金が得られない可能性が強いと思われる。

しかし、市としてはこの予約型乗合交通は市の重要な事業として位置付けているので、来年度の運行経  
費として5,000万かかるといったことで財政当局に予算要望しているところで、引き続き実施していくこと  
に変わりはない。

#### 【お知らせ】

⇒： 来年2月8日水戸市県民文化センターにて公共交通シンポジウムが開催されることとなりました。

このシンポジウムでは、「ひと」「まち」「地球」に優しいこれからの交通システムを考えようということで、交通  
ジャーナリストや大学の講師を迎えての開催で、参加費は無料となっておりますので、参加希望の方は企  
画課までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

閉 会 午後3：15

以 上